

令和6年度（2024年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

D 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和6年度（2024年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（15点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。

1. YはA社の代表取締役であり、同社のすべての株式を保有する株主でもある。YはA社のほかに、B社（A社の100%子会社。）を設立していたが、B社は事業活動を行っていなかった。
2. Yは新規事業の立ち上げのためB社を活用することを考え、Cを唯一の取締役に、Dを監査役に就任させて事業を行わせた。
3. なお、A社とB社は同じビルの一室で事業活動を営んでおり、YはCおよびDを部下のように扱い、Cも自身を「雇われ社長」と自称していた。また、B社には経理部門が存在せず、すべての会計はA社が行っており、B社の従業員に関する決定はYが行っていた。
4. Xは、B社の新規事業に関し500万円の売掛金債権を持つ債権者である。XがB社に同債権の履行を求めたところ、すでにB社の経営は破綻しており目ぼしい財産がないことが判明した。

[問い]

XはYまたはA社に対して、どのような請求をなすことができるか論じなさい。

問題2（10点）

非公開会社で取締役会設置会社である甲社（種類株式発行会社ではない。）が、第三者割当、株主割当それぞれの方法で新株予約権の発行を決定する際に必要な手続きについて、条文を引用しつつ説明しなさい（条文が項・号まで適切に示されていない答案には点を与えない）。なお、新株予約権の内容については考慮しなくてもよい。

以上